



三傳七
南柯夢
編後
五

1冊
600
222



600
222

再編占夢南柯後記序

洪容齋曰。漢藝文志七略雜古十八家。以黃帝長柳占夢十一卷。甘德長柳占夢二十卷爲首。其說曰。雜占者。紀百家之象。候善惡之證。衆占者一。而夢爲大。故周有其官。周禮大卜掌三夢之法。一曰致夢。二曰簡夢。三曰咸陟。鄭氏以爲致夢。夏后氏所作。簡夢。商人所作。咸陟者。言夢之得。周人取焉。而占夢專爲一官。以日月星辰占六

夢之吉凶。其別曰正。曰噩。曰思。曰寤。曰喜。曰懼。季冬聘王夢。獻吉于王。王拜而受之。及舍蒞于四方。以贈惡夢。舍蒞者猶釋采也。贈者送之也。詩書禮經所載。高宗夢得說。周文王夢帝與九齡。武王伐紂。夢協朕卜。宣王考牧。牧人有熊熊虺蛇之夢。召彼故老訊之。占夢左傳所書尤多。孔子夢坐奠於兩楹。然則古之聖賢。未嘗不以夢爲大。是以見於七略者如此。魏晉方技猶時或有之。今人不復留意此卜。雖市井妄術所在如林。亦無一人以占夢自名者。其學殆絕矣。又李瑩財貨銘曰。財貨將至。夢寐可尋。或穢或虺。乃玉乃金。穢可親歟。虺可玩歟。敢獻斯銘。以激貪夫。由此觀之。夢非故有吉凶應報。而爲有吉凶應報者。偶然耳。諺曰。癡人面前不說夢。余所說。豈夢寐吉凶耶。人間萬事莫非夢者。因命是篇。以覺蒙昧云。辛未初冬朔。玄同陳人識。



河可後已卷

左馬頭 業

銭松實郎

小異の元

平次郎

羊七

羊七

福左

勤左

多んぶね

井のり

赤根羊之進



続井原勝



君が代の歌は
あまのま
うらたけ
金もどか
くれ
おのま

玉枕御舟

の終り人の詩と賦一文を解ふ。檢りて右の壁に貼して常住坐臥す。これとてを喰ふ。一子の損益あるは必しを改むとある。余が毎歳の著編は速成せりて利きと。余は終て下びも蒙本と更ど。は。五日。まづ時代を定め地名をト。人名を撰。許多の脚色を巧出。まづして藻と綴る。まづの動も任。文の意も出。不任して且くも止。後。手亦遠。彼のうらみ。お畏。脱ある。た。粘りて。改。余嘗て我編。一風を。文を雅俗を。と。雅を好。と。婦幼不通。易。さる。又。唐の信。切。と。流者。文字。目。讀。隨。願。け。但。の。難。劇。は。似。る。あ。り。ま。づ。れ。ど。難。劇。と。同。く。又。難。劇。は。似。る。あ。り。ま。づ。れ。ど。今。年。著。と。亦。年。比。皆。忘。る。と。終。り。て。年。の。著。編。指。を。樓。ま。至。り。と。い。ふ。も。未。嘗。分。と。所。云。賢。者。蛇。は。懼。る。の。類。あ。る。べ。し。玄。同。陳。入。再。識。

三七全傳 第二編 白夢南柯後記卷之五

東都 曲亭馬琴編次

後帙第一

附言

ちうそこの物々りへ。天文十九年。不記。同二十一年。又。前後。僅。三。年。と。経。り。蓋。前。帙。四。卷。と。説。と。同。天文十九年。冬十月六日。赤根半之進。又。子。文。婦。蟻。松。曾。右。郎。亦。浪。速。の。法。善。寺。に。考。妣。の。善。提。を。吊。ひ。し。る。敗。殘。全。女。が。養。母。晚。稻。が。夢。の。事。孝。子。全。女。千。日。墓。上。祀。本。を。撰。て。は。む。め。父。の。仇。人。を。知。る。の。敗。殘。四。五。六。暗。小。全。女。と。た。と。つ。と。蟻。松。曾。太。郎。面。を。犯。し。て。順。勝。と。凍。と。赤。根。半。之。進。君。令。受。て。亦。谷。山。へ。赴。く。の。標。本。の。林。原。よ。全。女。赤。根。半。之。進。を。埋。伏。と。す。の。晚。稻。

有可後已卷之五

自殺しく。下めて素性を物ぐる。赤根半之進更主君乃
 小刀を獲らる。四五六全め夜米谷山る。本精塚を獲る。順勝
 怒て半之進を破んとする。才進塾斥の。順勝曾太郎
 命て半七を泥の中へ滴さる。辨天堂よ半七初花よあま玉枕
 前陽法と正しく。陰よ半七初花を助る。よべて十圓
 前快四巻よ盡この編へ笠松平他ぐる。よ起て。よく半七初花が
 顔末を説く。今釐て二快とる。例の書肆が前考ふこそ。

秋 兩の笠松上

半七初花ぐる。その曉は曾太郎より消息と。密に半之進
 告よけよ。赤根が園宅更一層の憂苦次ませ。才進が憤
 さる。あもい。三勝へい。苦れう。胸を苦め。か子の玉丸

あひひ。玉枕。前慈悲深く。さか。半七初花の密に
 命助ら。泥の小舟より乗ら。水門より腹を吐く。と
 け。せめ。の。よ。お。え。て。又。慰。う。あ。は。ぬ。え。ん。ど。は。は。は。は。
 良人の。之。限。せ。の。目。教。も。その。あ。て。果。う。け。の。い。つ。る。仰。や
 あ。ん。と。同。も。る。物。は。ひ。は。眉。根。を。ひ。く。隙。の。あ。け。は。匿。む。と
 ぞ。ん。ど。私。卒。放。女。る。ん。ど。の。ち。中。知。り。て。彼。れ。よ。集。會。さ。る。園。居。て。
 主の。陰。復。い。ゆ。う。と。て。く。か。ん。柱。み。身。を。倚。り。て。瘡。を。楚。と。押。て
 たり。浩。如。よ。腰。え。よ。使。つ。る。女。の。子。遠。く。ま。り。て。園。花。さ。ぬ。夏。山
 さ。ま。の。清。き。ひ。ぬ。と。告。よ。け。よ。三。勝。忽。地。を。擡。ご。ん。さ。る。ゆ。ぬ。さ。る
 こ。を。あ。め。ま。つ。容。房。へ。誘。引。て。よ。と。い。を。さ。ら。さ。る。海。も。あ。へ。さ。る
 去。程。よ。三。勝。の。并。取。て。鬢。搔。拵。て。帯。を。結。び。を。え。さ。る。と。く。縁。煩

侍ひ小客房の障子引開く裏に入ると園花の八丈笥を京深
 みる袷衣小白垢垢の衣ニッむり下襲中へ。つらつは揃流るる
 襦衣小練乃帽子紙戴き夏山のおり縮の色異なるふ。仁田山
 細の緋裏衣志る袷衣よ。白垢垢の衣ニッ於ニッ於袷襲て。あらの
 練貫よ。緋裏ある襦衣の下。僅小三歳四の平太郎が。熟睡せを
 撥抱けるが。其の帽子の素より。従者へ後門の裏へ憩とちわく
 くて庭の築垣よ。あつたよりまうける。狭箱の油単垣より上へ
 些一いんえと。當下三榜の園花夏山あは對ひて送よ秋の冷や
 るる安否紙紙同恙るを祝す。さてはあやう。家公量裏小殿乃
 勘気とせぬせもひてより畏まじむ親族よりとも訪ひ訪る
 るの紙えせん。百日あまり中絶するふ。あつたるあつた。新婦
 へは侍て。俄頃あつた訪せり。物詣の久さあや。いと締羅る死
 打拾ふて来りひらりと夏る。紙裏とらつて外にて。詰る底意を
 推量る。空を花のや。あつた。面うあつたひの中。咎と数る。紙ども
 家公の側室平紙が母お侍ま。あつた。の衣着くらんとそ。こ
 驕るととへ誰うへつらん。あつた。共よ。終居ぬ世の務の疎け且ど
 それも良人の志よ。情らどととの變化粧を。若くは紙推もひね。
 持ふけの限りあつた。月数も化よ果とれど。室刀の袷方なれど。あ
 ちや。加禰昨夜の。あつた。ませが。あつた。あつた。あつた。あつた。
 月夜人の口あつた。戸もまされ。あつた。あつた。あつた。あつた。
 うんあつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。
 かひる。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

とる病いづつたよめあへ何高深人暇いとま由り。只夏山ただなつやまとて下對あひまひ。あらん
 中なかとどひつ。さひう袖そでる物詣ものまきかる時ときふの殊更ことさらふ憑たもむの神徳あんとく
 佛力ぶつりきと春日はるひの社やしろへ月消つききりさせる験まじりあるけいさども家公いへのみるりおん牙は
 ろり。恙つかるく坐まさるる。これ由春日はるひの擁護ようごあるめ。みよりの使つかいさ
 ろり。福ふくと半ち七しちぶる。髪かみばる母君ははきみ祈いのちの沙汰さた由よしのとる。賽うらせ
 幸さいわいふ夏山なつやま偈ぎて推懸おしけん客物きやくぶつさへたおる。にむろとま接あひまひひそ。
 うら籠かごて坐まさるる。顔かほの色いろ由常とこるる。す七しちのつたるりけん。
 幸さいわいく命いのちを助たすけり。玉枕たままくら前まへの賜たまはり。良よのうらちの飲のむび。と人ひと由
 こその人ひと妖あやれ前まへの靴くつと隅ぐもて癩かさねを搔かく。中なか推量おしりやうさびつと
 痛いたくと半ちひらせび。三さん務むの眉根まゆねを鑿ひそ昇あめ。喃なん言ごんさたのす七しちこと名の
 隅ぐもの圓まるくある母ははと宣のたまへど。彼かれ由又良またよ人の肉牙にくはおん牙はが生なぬめのこ
 と。この憎にくげ由宣のたまふる。勿論もちろんす七しちが不ふ義ぎ不ふ孝こうていつた。ゆめの
 ろり。あがら。その水みづえ。おん牙はが姪めひ花はなの。淫奔いんぱんよ。まされ
 ぶ。ころろ氣けの愚おろさ。智ち者しや由勇ゆう者しや由よし。迷まよ入い狐きつが落おちねが。るり
 ろり。ふ舊ふるの人ひとあへぬ。むる。じ。ひ。牛うし。もも入いると此こゝの。る。由氣いきよ
 うひて。月つき来きたは。ぬ。げ。る。角つの牙めら。茨いばらの刺さを柳やなぎの糸いとよ。ま。理りと
 通とほく。うら。微笑わらえ。妙たへさ。由何なん宣のたまふ。や。ん。吾われ儕し。おん牙は乃なり妹いもうと
 ろり。淡たんや。ま。る。る。は。狂あはの半ち七しちを生なぬ。りの。と。憎にくむ。さ。恨うらみ。あり。や。ま。ま
 母はは。い。ま。恨うらみ。ある。救たすむ。れ。る。ま。ま。福ふくと。妹いもうとよ。せ。よ。室むろを。た。の。おん牙はが
 兄あにの。二ふた代たひの。執柄しやくへい氏し。といひ。録ろくといひ。大おほ和わよ。ま。ま。え。一ひと名な家やの。末すえ五ご備びの
 おん牙はが。妙たへあり。とも。又またま。盲めくら目めの。牙はの。舞妓まいこ賤しやん。い。母ははが。元もとと。宣のたまふ。
 半ち七しちが。淫奔いんぱんと。笑わらふ。と。る。る。る。初はつ花はなの。又またま。ま。加かて。の。淫奔いんぱん。叙母せぼ乃なり

と。この憎にくげ由宣のたまふる。勿論もちろんす七しちが不ふ義ぎ不ふ孝こうていつた。ゆめの
 ろり。あがら。その水みづえ。おん牙はが姪めひ花はなの。淫奔いんぱんよ。まされ
 ぶ。ころろ氣けの愚おろさ。智ち者しや由勇ゆう者しや由よし。迷まよ入い狐きつが落おちねが。るり
 ろり。ふ舊ふるの人ひとあへぬ。むる。じ。ひ。牛うし。もも入いると此こゝの。る。由氣いきよ
 うひて。月つき来きたは。ぬ。げ。る。角つの牙めら。茨いばらの刺さを柳やなぎの糸いとよ。ま。理りと
 通とほく。うら。微笑わらえ。妙たへさ。由何なん宣のたまふ。や。ん。吾われ儕し。おん牙は乃なり妹いもうと
 ろり。淡たんや。ま。る。る。は。狂あはの半ち七しちを生なぬ。りの。と。憎にくむ。さ。恨うらみ。あり。や。ま。ま
 母はは。い。ま。恨うらみ。ある。救たすむ。れ。る。ま。ま。福ふくと。妹いもうとよ。せ。よ。室むろを。た。の。おん牙はが
 兄あにの。二ふた代たひの。執柄しやくへい氏し。といひ。録ろくといひ。大おほ和わよ。ま。ま。え。一ひと名な家やの。末すえ五ご備びの
 おん牙はが。妙たへあり。とも。又またま。盲めくら目めの。牙はの。舞妓まいこ賤しやん。い。母ははが。元もとと。宣のたまふ。
 半ち七しちが。淫奔いんぱんと。笑わらふ。と。る。る。る。初はつ花はなの。又またま。ま。加かて。の。淫奔いんぱん。叙母せぼ乃なり

他への淫妄あり。おん身がはなして同て入る人異又の姉妹でも。生涯まうする。
まきひらら。寝めふ崇とやらん。月來の如き妖匿あふど新婦前
借て被飾せませるひひはきて。吾儕をまは疎せと。おん身が
母屋へ居んとく。憑の妹君の時々の殊更ふ。吾儕ゆひつら
侍り。有べきは只妹ふこそ。とあふと笑ひつむひ天と。焼つけ
らまて。筆花も。思ふよえと。とて面報する。襦袢の衣紋るは。あ
らるぬる。實ふうねまら。この解るせが。あうり。時五六年。ひ
ほそりて。病させぬ花あると。たごは。穢びひる。ゆん。終て。あひめと。
談の。澄文と。出。後。まて。四十。あまう。齡。由。既。小。動。の。い。そ。ら
近。云。子。和。い。び。る。あ。ま。婿。執。て。何。ん。せん。鬼。孫。の。い。ん。あ。も。羞。ま。ん。と。や。
姉。る。ん。が。と。て。理。る。ら。ん。と。く。妹。あ。い。の。の。款。意。い。ん。と。と。膝。ま。り。母。
せ。が。筆。花。も。あ。の。む。ご。ご。小。膝。ま。り。む。傍。つ。と。ま。夏。心。の。後。方。い。ん。
ま。び。く。密。と。引。母。の。袂。も。只。あ。ら。う。れ。と。あ。う。ひ。る。揮。放。さ。れ。て
又。携。り。禁。母。は。ぬ。ご。直。怪。る。は。や。腹。ま。ま。た。り。の。あ。り。と。も。因。縁。
ら。れ。て。坐。し。ま。と。母。屋。へ。来。ま。り。と。声。さ。す。小。淨。ひ。の。の。大。人。気。ま。り。
傳。早。る。胞。姉。妹。の。賢。女。貞。婦。と。誉。れ。り。松。の。標。を。今。さら。ふ。
易。て。送。よ。幼。る。顔。は。楓。と。見。せ。ぬ。血。で。血。を。洗。ふ。世。の。濊。に。教。
護。と。後。小。只。悔。く。お。ぶ。と。る。も。あ。ん。外。伯。母。さ。ぬ。の。い。と。く。氣。ま。
ゆ。中。結。ま。る。人。の。憎。う。ぬ。人。を。恨。啣。て。生。常。ふ。あ。ぬ。物。い。ひ。ご。ま。も。
有。べ。さ。る。と。笑。る。が。慰。め。て。こ。を。避。近。よ。訪。せ。ぬ。ひ。く。ひ。の。あ。れ。痛。
外。伯。母。さ。ま。真。の。胞。姉。妹。ふ。と。せ。が。こ。の。い。ま。た。ぬ。る。と。も。笑。え。回。答。
ま。た。り。ゆ。紙。中。回。答。く。う。ら。腹。は。い。あ。の。う。ら。それ。由。聞。ぬ。誠。ま。

奇一世の不親の泣裏とどひはて許さるゝと勸解る徒氣さ
 怪判さ然らるる空花と背あせの三務ハん向中やらん冷
 笑ひ母のひんりていひ肩うとて加勢ハ来ませ一羽婦ハ寮
 口はいつと爽るる。吾儕由言紙巻をどゆる。せと云号し。初花ハ
 おん才の妙ハ前彼淫奔ハ似り。平能ひとりて召守し。えさ
 子りらふるりあひて。夏夏こそ在らぬ。と取由著ま。浪潮時
 せられて夏山ハ忍地ハ貞女と同答家公ハあり。爲る迷憶
 つみゆるものけり。論ハ益と筆花ハ副帯引締立あり。
 夏山何由宣ふる。いづかの狂女と問答家公ハあり。爲る迷憶
 さん限るるけいど。きも執次りのハあり。瘡病とる平能ハ固ち
 さらたまがむりとす。誘さらぬと。いそかせど。る母立りぬる奴
 ありやふ。引ハ忍地。樽覺えんて。よくと鳴る平太郎と袖ハ抱締
 敲ついても。は止め子おせんよぶる。やや。お才を起し。夏山よ
 空花ハ。ころ母屋ハ遺ま。いも。蘭のひ。孫麻縁頬の障子
 開て出んと。どね。外面ハ。さうら。み。君所より。おん使
 さむらふと。海門ハ吐嗟と。さう。三人ハ。拘ハ。軒と。さ。立止。我
 空花ハ。さ。あ。おん使。あ。と。海門。あ。と。今。一時。が。家公。の。生死。定。お
 と。い。と。此。方。入。来。ま。せ。と。露。り。案。内。ま。り。る。ま。の。宿。所。先。入
 立つ。縁。頬。より。出。居。の。枚。戸。露。あ。つ。た。袖。う。ら。合。と。拘。の。汗。あ。つ。も
 いて。倍。り。り。納。戸。の。か。え。才。と。選。り。り。

秋雨の立松下

西河邊已卷下



三三三

新根が
松平作
君命
伊を

三三三

松平作



松平作

あひ定めしころから。三務のいほく。ゆゆのあつめる。床の懸物引るわし。
物いほく。くろ納まへ。半之進の衣裳を整理障子左右に開けて。式
基すて出迎へたり。と待候。庭門決し。と後者木が昇入。轎子を
敷筵の半中。横まよはし。著色。半之進。夫婦礼儀。中。蔦子の
戸を。あひの。と。ま。使者へ。別人。赤根。二男。平。他。享。平
こ。二。一。齡。稚。木。の。二。代。の。笠。松。身。長。き。く。相。親。秀。さ。いと。白。く。又。安。く。
病。中。の。れ。の。月。顔。の。熱。色。の。ど。く。黒。け。れ。ば。眼。睛。さ。の。ほ。く。茶。褐。の。肩。衣
長。袴。袴。子。より。先。に。出。て。刀。を。縁。に。突。ま。て。揺。ぎ。出。被。首。を。首。衣。袴。と
て。て。う。ら。絶。の。家。子。の。人。外。母。公。も。恙。も。や。坐。さ。る。親。子。の。思。後。へ。こ。れ
私。瘧。病。も。籠。居。さ。し。も。君。令。膝。ま。よ。祈。る。おん。使。を。奉。て。笠。松
卒。他。復。向。せ。し。も。後。者。亦。汝。の。く。退。て。門。外。に。且。く。や。と。と。と。と
い。そ。が。ま。し。誘。赤。根。後。役。令。ま。れ。が。上。坐。を。許。し。と。刀。引。控。床。間。を
背。あ。り。て。居。長。き。く。ま。と。坐。と。扇。の。ひ。も。重。く。置。し。殊。も。気。多
不。三。務。の。果。是。果。て。う。ら。瞻。り。君。祈。り。おん。使。と。り。め。く。門。を
何。人。の。と。と。ひ。く。此。方。の。三。郎。の。笠。松。ど。の。は。や。君。令。ま。れ。が。と。と。
親。を。親。も。ひ。ひ。せ。ぬ。虚。物。件。の。瘧。病。の。熱。も。中。後。さ。れ。め。ひ。と。と。
い。を。ん。う。る。ま。し。遠。乎。れ。み。せ。と。と。推。黙。も。せ。て。恭。ん。て。改。を。低。の。の。後。ま
孫。う。ら。お。ち。ら。い。と。い。く。も。困。居。の。お。ま。れ。が。設。由。せ。ど。あ。り。の。隨。る。
管。待。も。乃。字。之。憚。る。質。素。仰。の。頼。う。け。め。つ。ん。と。お。と。く。席。を
ま。し。ひ。ま。ば。笠。松。扇。を。膝。に。衝。し。て。赤。根。半。之。進。謹。で。承。ま。汝。の。あ。る
二。月。十。七。日。米。苦。ろ。の。赤。精。塚。を。復。風。流。士。の。大。刀。を。さ。う。出。て。置。し。の
おん。使。を。ま。し。請。る。が。ら。太。刀。の。失。う。と。傷。り。て。こ。ま。進。せ。と。前。後

二百日ちう近ちか于に光陰くわういんといつゞく送おくりし偏ひと小ま主ま君きんと傷るや似にたり。
 そのもとるは長ちやう男なんすて七しち八はち犯はん所しよを脱出だつて淫樂らん事じとせり。これ
 人ひととりめの亦また行いくや。ようて件の自後ごを六柴さい浸しんの刑行いはしめ
 乞こぬ併その罪又また子この間あり。此こ彼か犯はんとところ経りよあらねど
 格く外がいの慈愛あいをめて今日けふ切き後ごせしもる案あん仰やうの執件しつけんのごとと
 述じゆもあぬは三さん勝しやうへはあらぬ堪むとうり落おち涙あらむ目を拭ひ。
 つと恨うらみげふ平旭へいとつぐとうとを啜り。奴やつの危窮ききゆうを身あらても。
 まじし清る子この道みちさまを孝ふあらばも又か頸刎くん使ひ。
 推い辞まも推辞まべきふ撰擇せんせしと牙の幅よ病を推て奴の宅を端荒はらしに來きる氣割きりの現げ逆ぎやくさぬの世るらぬ妹の姉を孤りあぬ。
 新しん婦ふと孫と奴を使はしるこ又また奴やつの死を使と使ふまとまんをも
 おそれど幼ち推おと死ふのくくと鬼とまとのあらはらりしよ空を花
 のま。その子までお神天てん魔まふ奪れけん使しふまとる君きみも君形かたちる死
 牙みの情を移し昔の奴當たう家けの成敗せい伍ご子こ骨こつ死して吳王わう滅めつび。
 范はん增しやう去きて楚國こく傾けいく世の常言じやうげんも今更まふしひやられて哀しやと
 世よ恨うらみと又また牙みを墓るも一いっ声せいさく泣なれ平旭へいのうち仰ぎと呵あと
 冷あ笑わらひある口競けいり故事こ未ま歷れい直ちく躬こうが牙を代んとを親をを
 救きうふて名なを取りし廻ま魯ろ聖せいの取る下遠とん漢かん土どとまんかれたれ
 近ちかく奉朝ほうてう保ほう元げんのむしとしつば左典さでん既き義ぎ朝てうに臣又また為ゐ義ぎを誅し
 たる勅令てうれいるんが是非ぜいよるべき賞しやうへ臣の求る下四し割かくの臣の行ふ下
 豈あ私しとりて論せんやの友よ男子なんしとるもの家ふ在て奴は事。
 出い仕しての福ふくよ死と忠孝ちゆうかう両りやうるら全ぜんく志げしうらぬ死怨しん言げん傍ぼう痛いたと

飽ちては扱ふれば半之進莞尔と笑も保元の順逆の先替既小
 らんを論む上の兄弟牆小園で下ハ親子仇とする事三綱紊まら
 人道まじむが君も又如此なり。使者の人侍ころえかこ。全く
 言居のちん僻る。といへせもあぶど眼を睨り。臣とて君を扱せむ。
 こそは忠義といへば致さる馬鹿りの主とまふべ傳頭別ま取
 前小袖を拂てると去る。言承せぬの令代惜むや。いり争命を
 惜むむ。まらむか仰を推辞るや。いり争仰を推辞まらうさん。
 推辞むら切腹の用意。といへせむ。まらむ。進座をたては沈む
 する女房と倍とんやうてや。三務藤て覺然の上のねよ。とら
 丸とん武士の妻小ぬむ録すの折。腹肚断刀。とらむ。と焦燥
 あぞ。と罪もるのみ。とせうに拭ひ。うら拂ひて。引提の水由
 湯とるれど。まらむ。小早の愛の世と。とらむ。又あひうねて。まらむ。
 身を起し。國遠けむ。有妙とも。お通陶五郎のつや。まらむ。とら
 せめてませむ。花ふとらむ。ちうら草とらむ。あひう。の紙。まらむ。
 後房お妹のせんと。良人の末期と外む。面半。せぬ。鬼。蛇。ね
 ぶが腹袋。まらむ。とらむ。とらむ。赤根。の。子。とらむ。
 の。まらむ。雙言。散。とらむ。あひう。て。由。五。侍。の。も。墓。る。く。お。と。あ。り。と。ら。む。
 出雲の神や。信。び。けん。今。ふ。と。ら。ぬ。悪。縁。の。糸。の。文。系。と。ら。む。と。ら。む。
 と。階。然。と。ら。ぬ。納。戸。の。う。と。ま。ん。と。ら。ぬ。紙。遣。り。由。と。ら。む。平。能。と。ら。む。
 声。と。う。け。内。室。且。く。齒。り。も。人。肚。断。刀。に。と。ら。む。と。ら。む。腰。あ。り。
 扇。と。取。て。半。之。進。お。投。する。紙。膝。へ。も。落。さ。む。右。子。子。受。扇。を。用。て
 刀。と。ら。ぬ。と。腹。平。能。膝。と。ら。む。寄。せ。式。能。法。ふ。と。ら。む。自。教。と。ら。む。

眞の武士はあぶさる。傳頭刻らるる。罪犯るればも當家の家
 廻一撃を降さんて。古例に任する。扇腹女清の親子の好意。平徳は
 つつしつと。亦是君の命こと。説示せむ。進の扇と。つらつらして
 嘆息し。その罪はあぶさる。と。志と述ると。死の君の罪を。清は
 仰る。實は諫言容れざる。汝は。米谷山。して。吐く。切也。
 君は。睡させまんと。と。ひい。とも。鶉の。背。齧。詰。て。今。今。死。て。益
 る。汝。の。命。令。これ。せ。と。り。後。祖。子。扇。と。取。て。戴。が。さ。り。と
 引。抜。く。平。徳。が。又。の。光。り。子。三。勝。へ。覚。悟。し。つ。も。忍。ま。さ。走。り。よ。れ。が
 笠。松。の。坊。と。ま。と。長。袴。の。裾。踏。う。と。寄。つ。け。せ。左。子。へ。授。け。り。
 右手。小。携。る。汝。を。進。入。る。ふ。沿。堪。む。妻。の。帶。際。に。戻。り。膝。中
 押。へ。て。動。せ。ば。い。ざ。女。清。と。合。掌。と。ん。ば。健。完。之。親。念。あ。れ。と。平。徳。を
 父。が。背。後。に。刀。尖。を。肩。より。閃。りと。突。出。し。又。閃。りと。引。く。又。を
 ぞり。直。し。つ。つ。が。肚。帯。の。結。目。の。あ。ら。う。と。弗。と。断。ま。が。を。り。と。初。め
 帯。と。ま。の。鮮。血。と。ろ。と。滴。り。大。腸。小。腸。長。ず。ふ。と。つ。り。玉。を。笠。松。の
 ま。ぐ。の。沿。堪。む。と。又。と。捨。て。醫。居。を。撞。と。倒。る。ま。前。お。信。と。見。え。久。我
 才。之。進。の。あ。く。ふ。うち。も。騷。が。む。孩。思。う。く。中。譯。じ。よ。汝。さ。く。く
 ち。つ。つ。と。め。う。血。ま。の。常。る。さ。る。の。い。ふ。毎。呼。吸。絶。え。た。の
 際。疾。肩。ぬ。と。ま。り。つ。ら。ら。その。せん。や。う。と。ん。つ。る。こ。又。よ。代。て。死。ん。と
 ぞ。の。子。の。志。あ。ぶ。け。ま。ど。汝。を。笠。松。氏。を。冒。せ。う。が。口。が。子。子
 ち。て。口。が。子。子。あ。ぶ。は。實。又。不。孝。汝。を。ま。と。も。養。家。を。断。り。我。は
 あ。ぶ。は。う。の。れ。と。汝。を。け。り。と。聽。く。察。示。さ。る。言。の。あ。ら。う。ぞ
 教。由。く。子。の。為。不。思。愛。の。涙。落。る。膝。中。放。め。が。三。携。り。慌。忙。さ。

百何後日記卷五

九四

牙を起し。平能をうて吐嗟とむくり。気つゝのひも折。易ま。
 玳瑁の弁の落てこゝも糸は髪長を別まよりのける状と
 唾よりつやややく。抱き起せば平能の眼を睜て息を吻。夢公
 外母の前假初らから。公あふぬ悪言とこそ憎とわたりけぬ。
 る牙と齧てどども。なめり。明白主君の内意をほげ
 かくて親を罵り死を促せし。実るうの福ど五百世口をたのめ
 生まやせん。平能がけの自教へ全く養家と断よあらば。只
 君父の為らうと。よ毎は流し出る鮮血の上へう。俯ふ仲間と
 てる娘三務の背より抱き當め。やよ平能どの焦燥め。危うん
 いふとあふゆもせん。耳くひ。虚言をうるとか。まじせて
 する。黙よ比へて。ひ罵り。女子の浅ら。家公の子るるの。

かなぐりの志るのらんや。さかみかりける。口。今。入るう
 孤し妹への何れよ。事ごと。夏山の前。か。ま。む。や。秋子夫婦
 一生の別まよ。ゆらぐ。と。い。平能。母。妻。も。縁
 より。学。然。さ。ゆ。今。亦。ま。は。ま。の。お。の。が。黄。泉。の。障。と
 るらん。只。う。ち。捨。て。置。る。抑。此。度。又。兄。の。厄。難。い。あ。も。と。極。ひ
 進。ま。せん。と。千。々。お。お。苦。多。も。才。浅。け。ま。ば。謀。畧。る。け。と。暮。
 聖とあうせ。ん。平。限。あ。る。月。数。も。尽。た。る。その。夜。兄。公。の。濡。衣。の。る。死
 息。を。ま。し。も。親。を。お。り。滅。し。て。皇。天。の。悔。め。ば。平。能。に。て。命。よ。ま。心
 る。と。い。ふ。も。これ。も。又。父。の。罪。を。下。ま。さ。ん。所。詮。平。能。が。命。を。捨。て。父
 兄。の。罪。を。贖。ん。と。ま。ふ。も。か。君。よ。見。え。ま。う。の。ぬ。瘡。病。と。い。ふ。ま
 か。う。ま。ぬ。ら。ひ。う。移。て。母。と。妻。と。ふ。故。意。を。お。親。の。歎。と。吾。妹。子。が。

涙を硯に搦流し。只わつくくと遺簡も通骨筆を添せられたか。
 八声の鶏も乱れ啼睡方おひもろけど奉翰到來火急の足
 状病を憂びてそがまされ。まじく兼進と仰の競ごうがごとく
 取のみの疾取由あむ生仕せふ。君邊近く良しせられ汝を咄る
 別養るもは是より直おす之進が宿所おのりて又も迫腹切せ
 るべふ笠松の家へ恙るけん否とまうさば汝も脱せむ罪の次第の
 如此と仰はひもつて懸念入り。まめて死るが萬一ツ又を
 救ふに至るべしとさひ決して些とも強む主命おのりど由上天子より
 度入すも孝をりて國を治め。家とさのく牙を備るも親よ浩腹
 切せよと子よ仰さるるごうは且ま之進元來罪あり。たはを
 不たんとてその子よ討らるんあ。徳井家の断絶へ更も踵を
 めぐるにべうるは願くは平能が命をりて又と兄が罪をりた
 罪を許さむも人君の不とり災穰一奪んハ憚あれどる急なれが
 うう見えだ。まうまんよの只このまにゆと回答も果む。懐劍を
 引抜て左子の肚へ突立ま。吾君大に多き多き。早うらう仕位
 順勝が底意をさせん。その刃を引まやうそと遠く。みづうら
 某紙をり多し。叩声を細めて宣ふやういぬ。これ茶谷の女気を
 んて。武をりて是を憐んとおひらぶ。風流士の大刀をさう出さ
 ようと老臣どもお説示せ。曾太郎のうら練め半之進ハ練めだ。
 刀が血を犯せ。刃をえて茶谷の赴き。彼のの彼知し自殺して。
 主と練んとする。曩は半之進が懐て。どう遺しき。一討り。
 送書およそと下めて知覚。風流士のころおひ危され。なま

志くすも進と許さし死の家法せんより素直にせんか
 順務が牙の非を飾るに似れども臣に君に勝をりつぐ
 赤根が存き息とせん。且くさき紙推籠おれて又せんよ
 あらざるもさあひひか。ワが底意をささるはしと。すえ進の世を
 憤り。り自害とるごりや。とさひるすてす七を比の中へ
 捕おれし思愛の絆を被てすえ進り自殺を禁ん為るるるふ
 らひするや。す七の又親とさあひるる法を犯せが罪科腹まで
 びととつとも。玉枕がひひして。彼ホ主婦と延しとる。さるるふ
 限まる日数も果新よ半七がぬま衣のるれ名を立たれば今更よ
 ばも進と免とあ免とれど。さればとてつらまて。罪あるりのを
 屈おへば。病着る臥しとる。赤根が二男。平他を竊よ
 ちて。さあひるる。又よ。告させなやとて。俄頃よアロトせ。
 言を設て試るに親の危窮とさるる。アロト面り。は肚を切る。
 孝公男敢傳あり。憐む。堪る。仕後る。その深瘻の助り
 かしん。さるあれど。早やと狗死とさるる。故父よ代て死さる。死
 りて。一旦いひつる。さ意も達半之進す七が罪免とさ道とる。
 たり。せめてそのま。苦痛を忍びて。実父の宿所へとささん。赴き。
 潛りよ。さ意と存く。親子夫婦一生の辞別をせし。と。叮嚀よ
 仰下されて。几帳を繕う。まてる。練を。みつら。取て。平他が。瘻口を
 縫せ。の。感涙。数り。及び。の。君。思。忽。地。身。は。溢。して。さ。う。り
 へ。言。禁。由。る。く。只。伏。拜。と。伏。拜。と。涙。は。か。た。れ。や。や。遠。侍。を。す。ら。り
 出病ひ。再。度。と。披。帯。く。と。利。する。私。率。某甲。と。記。す。竊。よ。事。平。の

南可後 記 卷 五

既と母と妻とよ告させり。病中の使者もれば、襖で濡る紙許れて。
 親の家より来たよけしと。主君の思ふ事と代人よ。去らせとるふかたよ。
 の白あゝ演も物々む。親と對ひて法外なる。挙動とす申曉りて。
 君令紙重んどもひ。室よ父の父ありけり。往方去ればる見半七。
 周防ある姉身へ便もあつて平雁が。今果の一向傳へてよ。わりの死
 憑と進ととるの母の之妻の。僅三葉ある平太郎を。外母の前庭と
 齊して生肩後ふ笠松の家を。ついでとるま。といふも。申秋蟬の
 声うらりゆく。歎きの森は三勝とあんと。とど胸の裂るが如。縛り
 振う泣叫べ。奥ももよと声立ては。園花は夏山が抱れた。四んゆ
 友音と。脱子三人。輾び生左よ。存よ。擧るま。禁ありぬ。そよの
 風消るととる。か子の白紙ん果も。ゆせむ。室花の。身も。浮ぬ
 べし袖の両笠布。ひある笠松と。万葉と。まや言祝て。育て。今茲の
 廿一初孫と申。挙ても。ま。二幅の附紋も。ま。つり合せ。か。う。けれ。ば。
 結句。脱子。脱子の。緑。自教の。より。死。あ。せ。し。より。新。婦。由。吾。倚。由。
 満。き。よ。生。し。る。お。お。せ。ん。ど。も。只。信。終。よ。あ。つ。や。と。あ。い。を。鬼。不。
 きて。孫。携。て。ま。の。来。て。も。端。ま。く。出。ま。と。い。ひ。こ。と。ん。が。亮。隔。一。重。と。
 生死の境の。昔。び。よ。宣。ふ。を。啖。て。居。る。母。女。房。の。昔。よ。刃。腸。を。
 断。る。よ。り。る。母。昔。よ。あ。や。か。ら。つ。て。は。な。る。ま。姉。君。あ。り。三。人。の。子。
 あり。吾。倚。過。世。の。よ。ら。ら。秘。心。や。只。ひ。と。り。の。新。男。四。人。の。武。蔵。
 文。道。考。を。ま。や。ん。る。ま。に。携。ま。て。も。又。人。あ。る。ま。に。勝。ま。し。る。天。折。し。て。の。
 何。く。せん。そ。の。身。一。世。の。孝。行。を。け。し。一。日。よ。盡。ま。と。と。返。ら。ぬ。と。さ。う。と。
 か。と。口。説。つ。て。咬。入。ま。し。背。持。う。ん。と。ま。い。ど。も。ら。う。ら。ら。ど。い。る。れ。夏。と。ま。

母も痛し口も牙のつじ妬さまふの先がらて。たや又も見えても。
 四年限りの片鶉聖を子向の草の原露ちく袖と唧んより。
 昔は死しくもつと。良人のるるにたかしく。刃ささんとも。
 うが。三つを花傍より。抱き紫つ引退て死んとも。理うあれど。
 乳どま離まぬ平太郎。せめて母親あんな成長まをいつたり。
 身の幅廣くさふべし。死ぬるのも貞女といひんや。絶るんとさるまの。
 陰終正念とめつ。後の世吊よこそ貞女なれど。いひの論せも母も
 外母も。涙はつらぬ数さの数く。喃聖たの衛みりとも。口はあはく。
 いひ罵りし小腹もさけけん。かくあぶりとさるぬ牙の。さても腹まぬ
 良人の運命さるる。若くは自殺して赤根の家まけり。つらう。絶
 るん妹の側室といひあから。笠松の家まねれば。平維ま婦との見
 ちで縁坐の尤のせど。とぶてさるる争のぬ妹といひど。善理
 ある人へ善理とさるる。悪言もさるる。もさる置とも。さるる。
 みるる。さるる。さるる。と宣ふとも。引も引く。さるる。夏ど。の。い
 さま。後ほくぞあつらん。さても面う許しと。と勧解る妬
 ころ。勅解らる。妹と姪とる。面がせ。物作る。と宣ふ。妹
 隔意のあぶさ。秋。ためより。かろくと。告まわると。さるる。
 主君の内意平化が。大孝を化させど。と。いひの。それ買。洞。さる
 かけ多ひと。といひ慰ら。慰られても。慰ら。糸。別。離。苦。三。茶
 肥。由。呪。が。ま。さ。せて。や。母。の。膝。より。遠。下。つ。ま。へ。只。片。息。ある。父。の
 顔を。さ。一。視。て。の。夢。と。叫。び。又。視。て。の。夢。阿。と。い。ひ。さ。ん。や。親。と。子
 の。顔。乃。あ。の。世。不。と。ま。り。て。う。と。お。の。く。目。と。目。注。し。ら。と。と。哭。ハ

つらと泣く。平太郎が声は平能の色やまゝ眼を閉さ母に
さきつり夏は由。武士の女児は似ける死愁傷時夜通骨泣あじ
ても母泣足ふびや泣くもいそ。や家さ大人今日より閉居
関門の赦免状頂戴あれと刀の下緒は結び著と見出とま進
このと死やをゆを又眼を閉黙然とて居るは免状と変て
形を改め双の子に押戴さる。うち閉さて漬くごら。微臣が孤
空しう。主君教慢の作らとひるかへ。多へ災害消滅続井
家へまどく。繁昌まどらん致これ併平能が。忠孝の致を所アが
子るがら竹帛よ。ごめて永く功と賞せん。通奇特と押閉さ。
あぐ扇も言葉茶の要それうけもつて安堵へ。これまぐと
取あがる。刃は推。母女房。三務も諸共。竭るも命は是非あはし
己れから我は生いんとて何うのそご事のおぶ。喃を流さぬ。

同胞四人遠離とま。半七がうのさらも。お通陶五郎木が後ま。つ
さそを遺憾うらめ。現宜はさるものりし。半七のこみ出て。いま
遠くもさるめれど。居るさんあ。往方まれば。周防といの西橋を如
百里とやらん。二百里とやらん。あうと。うけが飛鳥の翅備りても
速の同よ。あもか。うのまひや。西の天を恋いけ。周防卒や。
心は青粒ま。や。築山の所。所より人の来よりし。と。さうぬまも
遙る。天も歎の雲霧。雨は簑傘。さる大男子。折戸はより。ま
ま。半七進を倍と。いんて。は進ま。と。呼のる声と共。簑傘。揺擲捨
ま。下。腹巻。巻。小。手。體。當。縁。頬。ち。う。く。牙。と。り。せ。る。顔。は。喘。て
吻とつ。息の肩より。揺出と。長途の。労。ま。と。見。て。け。ま。は。す。進。入。



うらみ、おぼやかし
おぼやかし、おぼやかし
おぼやかし、おぼやかし
おぼやかし、おぼやかし

さんろ

仙野呂東二

古仙野の
千枝の
千枝の
千枝の
千枝の



その花

あつ山

平作

平太郎

自殺を
あめく
再平作
君の
速く

南才の言者王

カ

忙しく。淨母持る柄杓を取て。温湯よまが。咽喉と澤させ。
 めづらひれり。槐姫は冊きて。周防山口へ赴く。元和五年は
 乃どとも。面會するに。より。炊栗郎太郎。注進と云ふに。
 火急のたより。欽ん。と縁より。小藤をむねば。さしゆく。言一朝
 あへん。むごころ。その本末を告げさん。抑陶権頭晴賢へ。大内の
 権柄あるよ。その威をさく。主君と凌ぐ。さんば。老臣。石田。鷲津。
 坂良。目官。三吉。枚原。日高。よ至る。その威おそれ。比周。り。
 まつる。いぬ。二月のさ。築山の所。よ於て。宝劔を捨る。あり。
 義隆。それと。齋する。小統。井。殿。より。贈られ。風流女。の。大刀。は。ぬ
 ころ。是る。ん。藤。て。は。及。ば。風流士。の。大刀。あり。ぬ。欽。大。和。より。獲。ひ
 あり。て。日。が。空。室。と。る。未。曾。有。の。吉。夜。こと。て。曩。は。晴。賢。は
 もつ。り。し。風流。の。一。冊。と。る。進。べ。と。仰。さ。る。は。晴。賢。つ。か。し
 従。つ。ど。却。件。の。宝。劔。と。も。賜。ぶ。と。と。と。く。は。義。隆。大。ま。怒。り。せ
 ろ。ひ。て。陶。を。誅。せ。んと。お。せ。ども。冷。泉。治。政。が。凍。よ。う。て。且。く。枕。豫
 る。の。い。が。る。辱。は。堪。あ。ん。ど。つ。つ。あ。ゆ。て。晴。賢。は。自。滅。せ。んと
 謀。せ。む。ひ。て。尼。子。退。治。の。大。お。よ。即。陶。と。さ。し。向。ら。れ。む。腹。の。近。臣
 する。江。良。丹。後。と。後。陣。と。て。中。は。挾。て。討。た。れ。と。て。謀。を。授。ら。る。
 ま。つ。る。は。江。良。の。い。ひ。が。ひ。る。く。え。う。り。て。晴。賢。は。如。此。く。こと。告。し
 ぐ。は。晴。賢。大。ま。怒。り。怒。り。その。著。る。は。立。地。よ。い。ひ。ま。ら。り
 ま。わ。せ。んと。て。富。田。の。稚。山。は。出。し。軍。兵。を。聚。ま。し。時。を。移。さ。し
 安。穗。五。郎。大。宰。小。貳。千。壽。丸。赤。月。三。角。と。ん。め。と。て。同。意。の
 軍。勢。三。千。餘。騎。忽。地。に。著。到。せ。り。頃。々。八。月。廿。八。日。義。隆。か。く。と。り

百可後記卷五

まろーらるばる茸狩さして慰まんとして寵の法泉寺に三日三夜
 所座を移され托山の奥に催さる。法妙は晴賢への軍兵等が
 生立を召隆よんせまわると。と披あして廿九日の曉方又法泉
 寺へ推らせて関と咄とつらつ。搦門よりぞ乱れ入る。召隆主従
 五十餘人さひうけざるころれば脱れぬ所と教て出ひ入る。あまの
 賊兵は或る射落し。突伏し伏瞬間は三十餘人を殺されども。
 敵大勢なれば物ともせと雁野彈正就勢津入道形をえ入るえ
 息をも継せど四方より火を放て嘯叫で攻入り。されば宿直の
 近習少く冷泉隆豊天野徳内三浦戸井田仁保石田余と際と
 御箭射尽し組を刺らる。あひひくは討死す。その隙に召隆
 朝臣の廣縁小を出十弓あつて敵を柱矢種ゆ既よりさへくは
 小薙刀のてめけ者上自身は防戦時矢うつて今へあつて
 おかせくは客殿にきりへてまぶづくに腹うた切り。

及びや
 の歌々
 室町殿
 日記あり
 冷泉隆
 豊が辞
 せあり

みろやまけつのも雲もあつて風の時も残ら
 と涙ら。猛火の中は飛入て茶毘の煙とらりひぬと花もあま
 竹も果む。さくつと三勝を花月と目と注する。平徳由
 耳を傾けあのかく奇く響け。まき進膝立直。陶が及逆先非よ
 及む。基朝臣と槐姫の恙るや坐とつと。陶と問て炊粟いと
 面うげ額と指されば中將義基朝臣へ築山の御所よせせ
 くは晴賢あつて所へ推らせ。迫腹切らせ。痛く死う那姫乃
 け養又持昭院の一忍軒中。陶阿波又殺す。凡防長豊筑乃
 四ヶ國を晴賢は属さる。天地反覆時節到来。若くはも

槐姫の貴殿の息女お通どのと仙野呂東二は冊巻後門より
 落ちた。と惟よつて往方を去る。主の先途はえあぬ某
 何を面目ある存命べき。單牙なりとも。城軍の中は去り入り
 たり。死に死なむ。とどひか。縦賊兵二騎三騎撃ちて死する
 とも。九牛が一毛なり。大和へは進るさむや。とどひく。して百四里を
 僅五日よまのむ。つべさる。い果し。牙の懈のまじり。欲あ
 かのど。と腰の刀を吐へつて立て引續け。庭の井筒へ跳入り。
 かくて空しくり。半之進の今更よ。こまを憐れ。彼をおり。よ
 安捨。まぬ。主家の大事。天うら仰ぐ。そ歎息。いぬ。如月
 米谷。亦。猜。蒙。鳴。動。一。條。の。妖。火。西。を。投。て。飛。去。り。と。
 猶もホが告訴し。とどひかりか。原。来。彼。風。流。士。の。本。が。周。防。
 山口。飛。来。て。大。門。家。の。仇。と。る。ま。る。飲。大。和。よ。あ。お。げ。き。禍。乃。
 遂は彼処へ移轉す。時ある。お命ある。と。こま。ま。ま。と。く
 親実が。ト。並。神。の。如。死。と。ま。る。奇。之。奇。之。と。嘆。賞。され。る。三。擧
 塞る。胸。う。た。拊。女。流。る。が。ら。雄。く。死。お。通。姫。君。の。お。ん。供。へ。一。旦
 城。と。死。ると。も。往。され。る。教。る。人。加。梅。陶。五。郎。が。又。あ。や。属
 けん。主。あ。や。属。らん。律。の。容。子。紙。吹。ま。海。と。つ。と。子。由。多。母
 苦。し。死。胸。を。穿。た。さ。こ。そ。と。推。量。り。せ。め。て。半。七。が。彼。処。に。在。候
 去。つ。つ。厚。衣。ぬ。の。け。い。ま。で。も。存。命。の。へ。か。る。給。奈。乃
 猪。を。釋。ゆ。も。又。あ。ぶ。ぎ。物。を。と。悔。バ。悔。し。た。夏。心。の。あ。り。ひ
 絶。が。た。つ。か。所。天。の。も。時。も。奇。く。兄。弟。四。人。の。身。共。よ。一。世。乃
 厄。難。生。死。の。際。此。身。よ。つ。て。親。と。親。の。心。を。お。り。ひ。や。ら。る。と。

百物語 己巻五

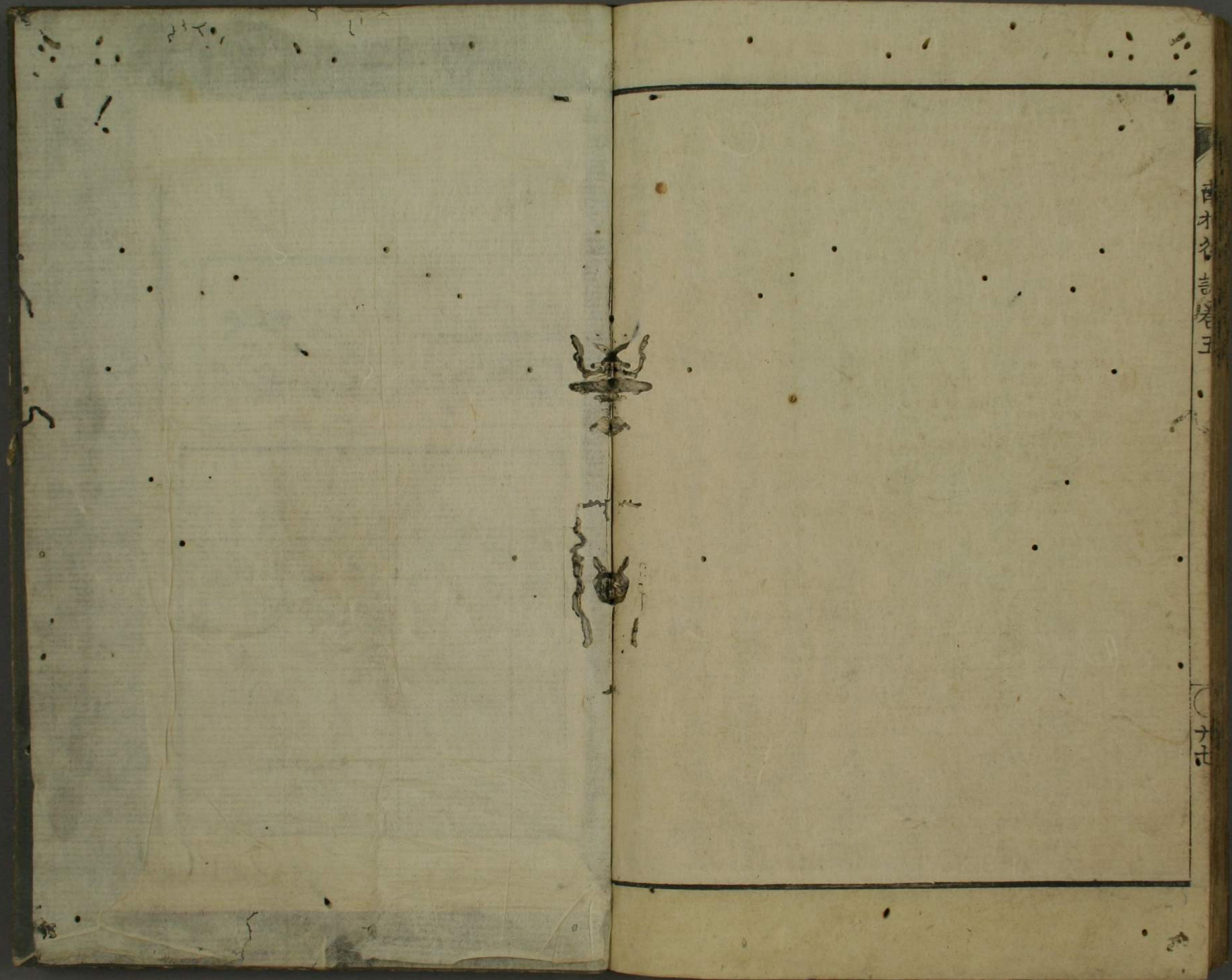
九四

卿が申した女子ども。身の程もどや敷くもぞま之進突と牙を
 起し。益るる言はし時を移し。主君の勳氣免とれば直は君へ
 出仕して。事の報告せし。三勝と衣服をりて来よ。物共やあ
 供よその用意せし。と叫ぶ。おら。注進さん。と叫んで。さあ。め
 こまも又。魏姫は傳れし。仙野。呂東。二道徳あり。ま之進。これ
 見て。陶が及。逆。隆。又。子。あ。り。あ。つ。う。の。炊。粟。が。注。進。よ。う。り。て
 ちや。笑。ぬ。魏。姫。の。う。さ。め。と。は。む。と。述。多。と。い。ふ。が。せ。ば。呂。東。二。息。を
 吻とつた。官爵高は鶴の峯。大内殿の栄花の蔭も老臣陶が
 謀及よ覚て。築山の御所灰燼とるし。一忍行の入道。ま之
 魏姫も。魏姫と。お。通。の。と。某。こ。ま。紙。冊。さ。ま。わ。せ。一。方。の
 困。紙。代。ひ。と。ま。り。て。小。侯。の。御。の。あ。り。こ。る。河。川。の。あ。り。て。追
 進。進。せ。たり。け。ん。軍。隙。あり。追。慕。来。て。捕。捕。と。競。ひ。て
 懸。こ。ま。某。こ。ま。の。目。く。防。ぎ。魏。姫。の。遠。く。魏。姫。の。往。方。を
 志。す。ば。六。遠。す。と。周。章。し。り。大。和。路。を。さ。う。さ。う。め。り。や。と
 思。ひ。し。漫。よ。ち。ん。迹。を。慕。ひ。し。あ。る。と。も。志。す。ば。一。昼。夜。二。三
 十里。宛。ま。の。向。り。て。今。夜。々。へ。来。よ。け。ま。ど。る。ほ。ち。ん。往。方。を。志。す
 う。し。顧。み。し。魏。姫。を。因。り。し。然。る。く。八。巻。も。ひ。く。ん。づ。れ。の
 時。を。期。せ。ん。と。て。面。多。れ。浮。世。は。存。命。べ。き。也。は。し。多。と。い。ひ。も。果。ど
 ち。が。て。刃。を。振。う。け。て。自。殺。せ。ん。と。志。す。り。う。が。半。之。進。急。に。推。察。め
 衛。又。炊。粟。耶。太。郎。が。言。下。し。合。衆。隕。し。る。際。に。は。れ。れ。も。真
 忠。臣。の。不。死。よ。あ。ら。ば。恥。を。忍。び。牙。を。保。ま。り。直。は。引。く。と。

播磨美佐。前後備州。姫の先途を見究て。後日の忠義肝要

るんと。説諭セバ呂東二ハ今更死ぬるふえ死るれどとありひ
 かしを刃を収めしむるが引くく再て安否を告げらん余と
 心をひひうけい。走るをせ進ハ且くと咄びとめ。正心するハ
 貴殿の腰間路費の用意ありとほ。儀別せん。と床間る。禮櫃の
 蓋うち開き。投与する包銀厚志。融るに堪へ。と押戴つ
 呂東二ハ背をも不見て。高歩よ。折戸を出て。名や失う。今果
 るりける平桃ハ。緯の容子不気と激し。こが又出仕。あふとも。未
 陶五郎ハ逆臣する。晴賢が養子。るれば。こが君。お死。あふん。款
 不覺。よ。出仕ハ危。かんと。し。バ。赤根。へ。うら。点。改。汝。が。異。見。そ。の
 理。あり。あ。れ。ど。も。陶。五。郎。ハ。養。父。が。野。心。奴。隷。ぞ。あ。り。ぬ。君。を
 殺。さ。る。親。あ。の。与。せ。お。の。大。事。を。人。傳。は。や。さん。ハ。不。慮。さ。り。と。く
 出仕の供。ま。せ。よ。と。焦。燥。ハ。涙。を。禁。て。三。勝。ハ。背。より。被。さ。る。肩
 衣。中。晴。ま。ぬ。あ。ひ。の。晴。小。袖。見。ま。る。空。花。夏。心。ハ。疾。風。の。為。よ
 経。惟。子。ハ。君。所。へ。子。ハ。死。出。の。旅。迷。つ。り。の。糸。三。勝。ハ。歎。け。や
 ち。ハ。周。防。あ。る。女。見。と。季。子。を。咄。子。を。お。何。つ。つ。あ。り。ぬ。出。て。ゆ。く
 主人。と。送。る。奥。と。門。從。者。あ。ら。ば。強。接。箱。奴。隸。か。る。母。と。中。接
 藁。の。草。履。穿。ぎ。よ。遠。く。続。け。く。と。い。ハ。声。と。ひ。く。潮。と。死。う
 系。能。か。撲。地。と。後。の。死。骸。の。上。子。牙。を。投。め。く。空。花。と。夏。心。か
 ころ。と。泣。く。こ。ま。や。つ。が。子。の。終。焉。あ。ら。ん。と。あ。へ。ど。亦。え。ん。く。ま
 連。る。げ。さ。紙。背。後。あ。り。く。す。之。進。ハ。喘。く。君。所。を。投。て。去。去。ぬ。

古夢南柯後記卷之五終



書才名言卷五

九

